

## 東海大学インドGV同行記：現地でカナダチームと合流しワーク

今年2月、東海大学のインドGV（グローバルヴィレッジ）チームに同行してきました。今回のサイトは、インド南部の大都市チェンナイからバスで4時間ほど南にあるポンディシェリー。このサイトでは、2004年12月に起きたスマトラ島沖地震津波の被災者支援として、インド政府・現地NGOそしてハビタットが協力し、1つのサイトで97軒の家を建築しています。日本から参加した東海大学、そしてカナダから来ていたGVチーム、総勢約50名のボランティアが集結してワークを行いました。その様子の一部をご紹介します。

所属	Same Same but TOKAI(東海大学)
訪問先	インド/チェンナイ(ポンディシェリー)
サイト情報	津波被災者支援 97軒
活動日程	16日間:2008年2月4日～19日
メンバー	計:32名(大学男性:14、大学女性:18、一般女性:2)

(コミュニケーションオフィサー・伊藤礼)

### 家の出入りは身を屈めて

ホームオーナーたちが現在住んでいる村がワークサイトに隣接しており、初日に村の中を歩くことが出来ました。現在の家は、壁はレンガを80センチほど積み上げただけで、その上にココナツの葉を編んだ屋根を乗せて出来ています(写真①)。2年に1度は屋根の張り替えが必要で、その費用は日本円にして3万円程度。これは彼らの平均月収の3倍にあたります。家の中に入るには身を屈めなければならず、家族全員分のスペースはないので食事も睡眠時



も外で過ごしています。

この地域では、ブラット・ピットも参加したジミーカーター・ワークプロジェクト(JCWP)などの実施経験があり、ハビタットの活動がメディアからも注目されていました。そのため、私達チームの活動も、新聞やテレビで連日のように取り上げられました。そして、そのニュースを聞きつけた州政府の福祉省長がテレビ取材班とともにワークサイトを訪れました。

### 州政府からの支援もゲット！

ハビタットの活動を視察された省長も、実際にレンガを積む作業に参加。しかし、ここで問題発生！ハビタット初体験の省長は、レンガを逆向きに配置。周りの人たちも、間違いに気づいてはいるものの、恐れ多くて省長に注意できません。

ところが、一緒にレンガを積んでいた東海大学の学生が、省長の積んだレンガの向きをテレビカメラの前で正しく置きなおしました。周りの人たちは冷や冷やビクビク。しかし、省長は「ボランティアが、これほどしっかり作業できるまで、ハビタットはきちんと指導しているのですね。これなら安心です」と笑い、「上下水道や電気の整備を政府が負担します。最大限の支援を州政府から保障しましょう」と、ハビタットに約束してくださいました。



### 一緒に汗を流すことに意味

季節は冬とはいえ、連日、40度近くの炎天下での作業が続きました。ホームオーナーたちやその家族は、毎日作業に参加し、私たちが休憩や昼食の間も、休むことなく作業をしていました。そんな彼らに比べたら、私たちが出来ることは大きなことではありません。しかし、私たちボランティアが現地の人たちと「一緒に」作業をすること自体が、ホームオーナーだけではなく現地にとって大きな意味のある活動なのだと思います。



Japan Hope Builders 第3弾：タイGV報告

大学生、社会人の混成チーム「Japan Hope Builders」がタイ・バンコクでの12日間のGVに参加しました。最初はお互いの名前すら不確かな状態で始まった12日間ですが、1つの目的を通じて集った11名は笑いの絶えない日々を過ごし、貴重な経験と共に無事帰国しました。以下、参加メンバーの生の声をお届けします。  
(GVコーディネーター・太田歩)



家の大切さを実感

神田外語大学 佐藤邦彦

私にとって今回は二度目のGVでした。2005年2月に参加したフィリピンGVで、ボランティアという概念が自分の中で180度変わり、再びフィリピンで体験したような素晴らしい経験をしたと思います。参加を決意しました。

家作りは土台作りから始まり、セメントは機械ではなく自分たちの手で作り、屋根の骨となる部分のペイント、ブロックでの壁作りなどを始めとするワークをしました。貴重な経験でした。

私は今回のGVを通して、改めて家の大切さを感じました。家とは、ただ単に雨風がしのげる場所ではなく、心が安らげる特別な場所なのだと感じました。数多くの方が家作りに携わり、愛情のこもった“HOME”（温かい家庭）を築けたのではないかと思います。

今回のGVは本当に楽しく、笑いっぱなしで、日本に帰りたくありませんでした。初対面に等しいメンバーとこんなに仲良くなれるとは夢にも思いませんでした。今回、GVに参加して本当に良かったと思います。こんなに素晴らしい経験ができて感激でいっぱいです。

ただの思い出ではなく

日本大学 安保亮

とても充実したタイGVになりました。日本では冬なのにもかかわらず、タイは毎日20℃以上と、Tシャツ一枚で過ごせる気候でした。乾季なのに季節外れ



の雨が降り、少し予定とはずれたワーク日数となりました。しかし、その分観光が少し増え、象にも乗ることが出来ました。それまで全く知らなかったメンバーと行くということで、最初は不安でしたが、ワークをしていく中でいつの間にか、みんなと話せるようになっていました。特に、バケツリレーは楽しくやることができました。

反省点としては、自分がここに住みこれから10年、20年そこで生活をしていくんだという気持ちを持ちながらワークができなかったことです。このGVがただの思い出になってしまわないように、他の人に話をしたり、自分の生活に生かすことを一つひとつ出来たらと思います。今回、普段することができない経験ができてとても充実した楽しいGVとなりました。

「自分サイズ」でいこう！

石崎満伸

『自分サイズ』。これが今回なんとなくテーマになっていた。特に決めていた訳ではないが、漠然と…。今回GV初参加で、ボランティアって大層な活動もしたことは無く、かろうじて似たようなことといえば海に行った時に少量のゴミを捨てる程度か。自分の知識、体力、語学力？で異国の地で一体どれほどのことが出来るのかわからなかった。参加者のほとんどが大学生。うまくやれるか、溶け込めるか、なじめるかもわからない。けど、自分にできることを自分に出来る量だけやろうと思って参加した。

ハビタットは旅で知り合った大学生に聞いてネットで調べて、Lunch with Habitatに行きあまり肩肘張った『ボランティア団体』ではないのがわかり参加した。男も女も、体が大きい人も小さい人も、力がある人も無い人も、ブロックが10個運べる人も1個しか運べない人も、関係ないと思う。力がある人、レクリエーションの工作が得意な人、語学が堪能な人、みんなで1チーム。すでに参加した時点でもう人の役に立っているのだから。『自分サイズ』でやれる程度のことから参加できればいいと思いました。

も、関係ないと思う。力がある人、レクリエーションの工作が得意な人、語学が堪能な人、みんなで1チーム。すでに参加した時点でもう人の役に立っているのだから。『自分サイズ』でやれる程度のことから参加できればいいと思いました。

タイ人の温かさに触れて

神田外語大学 泉水久美子

初めてのタイ。やはりとても暑かった。最初の4日間は雨で思うように作業できなかったが、5日目から本格的にワークが始まった。私たちがした仕事は、セメントと水を混ぜたものをバケツリレーで運び、それを家の床に流し込んだり、レンガを運び、その運んだレンガをスキルドワーカーさんの指示に従って、壁となるように積み上げたりした。私たちが出来る仕事は少なくともどかしく感じたが、現地のスキルドワーカーさんやホームオーナーさんは私たちが楽しく作業する様子を喜んでくれているようだった。

コーディネーターに指示を訳してもらったり、彼らと言葉は通じないが、ジェスチャーなどで会話をしながらの作業はとても楽しかった。役に立つというよりも学ぶことのほうが本当に多く貴重な体験が出来、またタイの人々の温かさに触れ、タイが大好きになった。改めてボランティアについて考えるととても良い機会になったので、GVだけで終わりではなく、今後も様々な活動に取り組んでいきたいと思う。

所属	Japan Hope Builders
訪問先	タイ/バンコク
サイト情報	Pathum Thani
活動日程	12日間: 2008年2月2日～13日
メンバー	計11名(一般男性2、一般女性1、大学男性4、大学女性4)

## フロストバイト@横田基地(1/20) 実施報告!

UT Habitat(東京大学) 増田めぐみ

「今までにない形でハビタットを知ってもらおう!」というコンセプトで、今回私たちUT Habitatは1月20日に横田基地で開催されたフロストバイトに参加しました。前日から雪が降るか心配していた当日は、素晴らしい快晴で、まさにマラソン日和でした。フロストバイトはキッズマラソンや5キロマラソン、ハーフマラソンが一度に開催される大規模な大会で、当日も約7,000人もの参加者が会場に押し掛け、相当な盛り上がりを見せていました。

いよいよランがスタートする時、ピリーズブーツキャンプ風のウォーミングアップが始まり、会場に熱気があふれてきました。ランには本格的に走るプロ並みの人は勿論、トラの着ぐるみやメイドさん風のコスプレをした人たちもい



て、見ている側も楽しくなるような雰囲気でした。

UT Habitatから参加したメンバーは、ハビタットのジャンパーを着て後ろにステッカーを張り、(後ろを走る人に見てもらおうという作戦です!)さらに帽子や自作のミニアドバルーンと一緒に走るという、かなりユニークな出で立ちでランに参加しました。しかもなるべく多くの人に見てもらえるように、ジグザグに走ったという人までいました!

そのおかげか、基地内の方の計らいで、会場内の表彰台の脇に運良く構えることができたブースには、ランの間にも関心を寄せてくださる方が多く訪れてくださいました。私たちのランへの参加を通して、今までハビタットを知らなかった人たちに活動を知ってもらう機会を提供でき、さらに新たに関心を持ってもらう契機になっていたらいいなと感じました。

## ワンワールドフェスティバル報告 立命館大学 福田茉莉

2月2日と3日に、大阪国際交流センターで、「ワンワールドフェスティバル2008」が開催されました。たくさんの国際協力団体がブースを出展し、野外では様々な国の料理も販売され、とても賑やかな雰囲気でした。

ハビタット・ジャパンもブースを出展



し、ハビタットを知ってもらうための写真や、ハビタットが活動している国々が一目で分かる地図などを展示したり、G VのDVDを流したりしました。カラフルなブースが、来場者の方々にも好評で、足を止めてブースを見ていってくださいの方も多くいらっしゃいました。たくさん用意していた資料も、2日間ですべてなくなり、このワンワールドフェスティバルを通して、本当に多くの方にハビタット・フォー・ヒューマンティのことを知っていただけたのではないかと思います。

G Vに参加するだけでなく、帰国後、今回のようにハビタットの活動を外に発信していくことも非常に大切だと改めて感じました。これからも学生として、国内でできる活動もどんどんやっていきたいです。今回ワンワールドフェスティバル出展に関わらせていただいて、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。

## 第2回すまいるオペレーション 東京・中野区で実施

ハビタット・ジャパンでは国内事業の一環として、支援が必要な独居高齢者など社会的な弱者に対する住宅小修繕および清掃支援などのボランティア活動事業(すまいるオペレーション)を開始することになりました。まずはそのパイロットプロジェクトとして、事務局が立地する東京都中野区において引き続き試験的に実施しています。その二回目の活動を2007年12月15日に2名のボランティア参加者を得て実施しました。

今回活動を行ったのは中野区東中野2丁目のSさん宅。Sさんは昭和三年生まれの79歳で、一人で暮らしています。3年ほど前から体調を崩し、今では心臓の負担になるような家事・掃除をすることが難しい状態です。今回は、1階において

ある大きな家具を2階に運ぶ作業を希望されました。

重労働を必要とする今回の作業にボランティアとして参加されたのは、関東キャンパスチャプター(CC)明治学院大学の入野野翔君。そしてハビタットの活動は初めてという、社会人の河原優さん。引越しやイベント会場での設営バイト経験もある河原さんと、大学でもこのような活動を学んだことのある入野野君は、手際よく荷物を運び出してくれました。作業中はSさんの楽しいお話を聞かせていただき、大変なごやかな作業となりました。

間取りや家具の大きさの問題もあり、家具は半分だけ2階へ移動。予定通りの作業とは行きませんでした。今後も定期的にSさん宅を訪れ、引き続き支援をしていきます。

なお、一回目のKさん宅、今回のSさ



ん宅の選定にあたっては、中野区からの委託を受けて地域の高齢者福祉活動をおこなっている東中野地域包括支援センターの介護支援専門員の方のご協力をいただきました。

今後も地域包括支援センターとの連携でボランティア活動の輪を広げていく計画ですので、皆様の積極的な参加をお願いいたします。



**寄付・助成金リスト (2007/11/28~2008/2/29)**

みなさまのご支援は、「誰もがきちんとした場所で暮らせる世界」実現のために使わせていただきます。  
ありがとうございました。(敬称略・順不同)

<寄付金>

日付	寄付者名	支援国指定	金額
11月28日	青山学院SHANTI SHANTI	バングラデシュ	153,000
11月28日	小倉 幸子		2,000
12月6日	北原 一輝		4,010
12月10日	西那須野幼稚園	バングラデシュ	20,000
12月11日	山本 茜	バングラデシュ	46,870
12月18日	大福来・市川里福		14,000
12月18日	カトリックイエズス会		20,000
12月18日	㈱コスモスイニシア	バングラデシュ	91,208
12月26日	読売新聞社・高橋信義		1,936
1月4日	栗田 真澄		1,000
1月7日	内藤 純		3,000
1月10日	カトリックイエズス会	バングラデシュ	50,000
1月18日	㈱コスモスイニシア	バングラデシュ	6,930
1月24日	郷 忠浩		1,000
1月28日	京都外大ハビタット		137,000
1月30日	学校法人アジア学院		120,628
2月13日	早稲田大学建築合同クラス会		557,855
2月14日	国立豊田工業高専学生会4年建築学科		86,000
2月25日	関西JCC合同チャリティ	バングラデシュ	155,878



お世話になったアミ・ボロク・ホエ・デシェ・ジュテ・チャイ(通称:アミボロ)の学さん。そして、ウェルカム大助さんが「すっぽん大学」を結成し、1回目の「はとライブ」を2007年10月に開催。その際にも収益金(82,569円)をハビタットへ寄付していただきました。

多忙な中、企画・調整をしてくださった「すっぽん大学」をはじめ出演者の皆様、会場受付や募金集めなど運営に協力してくれたキャンパスチャプターの皆さん、そしてご支援・ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました!!

■■■■「はとライブ」で集まった建築活動支援金■■■■

- ①収益金: 63,935円(入場料、おひねり)
- ②経費(会場費): 12,000円
- ③支援金: 51,935円(①-②)

※今回の支援金(51,935円)につきましては、ハビタット・ジャパンを通じて海外建築活動資金として活用させていただきます。

**「家を建てるクリスマスパーティ」開催!  
コスモスイニシアグループ**

不動産販売や賃貸事業など、「家」に関わる事業を行っている株式会社コスモスイニシアグループ主催のクリスマスチャリティパーティにて、キャンパスチャプターであるSHANTI青山学院がHabitat for Humanityについてのプレゼンテーションを行いました。ハビタットの理念から建築軒数、GVやジミーカータープロジェクトなどについて説明。過去に25万軒以上の建築を行ってきたというハビタットの実績には、皆さん驚いていらっしゃいました。同じ「家」という共通項を持つコスモスイニシア社の方々にも興味を持っていただけたようで、感激しました。

(青山学院大学 奥津日向子)



**お笑いチャリティ「第4回はとライブ」報告**

1月26日(土)、お笑いコンビ「すっぽん大学」(学さん、ウェルカム大助さん)の呼びかけにより賛同いただいた、総勢11組のお笑い芸人さんによるチャリティお笑いイベント「はとライブ」が開催されました。今回で4回目となる「はとライブ」には、70名近くのお客さんが駆けつけ、場内は大変な熱気に包まれました。各出演者の独創的なライブが大きな笑いの渦を生み、あっという間の2時間が過ぎ、大盛況の内に幕を閉じました。

毎回、この「はとライブ」を開催してくれている「すっぽん大学」とハビタットとのコラボレーションは、2006年12月に関東のキャンパスチャプターが開催した、バングラデシュイベントがキッカケとなりました。バングラデシュイベントで

ハビタット・フォー・ヒューマニティ・ジャパンは地域のニーズに基づいたプログラムや個人参加を通して世界中の貧困住宅の撲滅を目指しています。2007年は100以上の国々で、100万人近くのボランティアが参加しました。私たちのエキサイティングな活動に関するさらなる情報をご希望の方はぜひ下記までご連絡ください!

**Habitat for Humanity Japan**

〒164-0003  
東京都中野区東中野1-45-5  
日ノ出ビルB101  
発行人: 安藤 勇  
編集人: 茂木 周二  
同: 伊藤礼、内田三智子

Tel: 03-5330-5571  
Fax: 03-5330-5572  
URL: www.HabitatJP.org  
Mail: info@HabitatJP.org

